

私は願望として月1回は東京の水を飲み、風に吹かれ、隔月に1回小さな旅をして年1～2回は遠くへ…と40年来続けて参りました。

それは時には仕事先からだったり、ニュースや記事を見て、行き先だけ決めて旅程や宿は予約しない旅ですから、よく迷子になったり、行き止まりの山奥へとぶつかることがあります。それは思わぬ景観、史跡、人と出会うおもしろさ、奇縁があります。私はこれが心に残る旅だと思って続けて居ります。

1月10日前日に明日佐野厄除大師へ行こうと誘われ、早朝の快速に乗ったが、余りにも寒いので浅草の観音様へと予定を変更しました。

電車の中で益子の女陶芸家と隣合せ、東京ドームで催されている「日本の祭り 東京」へ招待されたので、浅草寺の初詣出を早々に済ませ、東京ドームへと向いました。

この日はビルの谷間を音を立てて吹き抜ける野分けのような風に泣かされましたが、群衆にモミクチャにされてドームへと押し込まれました。ドーム内はちょうど照明が落とされ、観覧席上段から見下ろすグラウンド中央に秋田竿燈祭りの竿燈が林立し、やがてお囃子と共に動きだした竿燈はドッコイショ！ドッコイショ！の掛声と共に豊かに稔った黄金の稲穂が風に揺れ、夜空に大きく波打つ様な光景に会場は大歓声でどよめき続いて居りました。

私も思わず今年の夏はきっと見に行こうと決心して居りました。

祭りは全部見られませんでした。祭りは内野で行われ今回の出場は石川県珠州の飯田山燈籠祭り、盛岡のさんさ踊り、愛知県の大山祭り、高知よさこい祭り、沖縄全島エーサイ祭りと秋田竿燈祭りでした。外野は全国どんぶり選手権をはじめとして、全国の故郷味じまんのブースがざっと数えて330店余り、あの広い外野も全くギュギュ詰めで、通路は通行、見物、買物の役目を全く果たせない大混雑でした。9日間行われた催しは入場料1,500円で40万人と発表されました。

故郷の味自慢は「どんぶり」「ご当地スイーツ」「ご当地グルメ」「伝統工芸大会」等に大別され 残念ながら千葉県は「ケーキ」と「箸作り」の2店だけでさみしい思いをしました。

出店者は北海道、山形、青森の東北勢、熊本、佐賀、大分、鹿児島九州勢、和歌山、石川、徳島の出店が多く見られ、それぞれの県の「観光は食から」の意欲のバロメーターを見る思いでした。1月19日は清和地区の研修で「羽田空港内の江戸前横町」を見学して参りました。これからの街づくりに百聞に優る一見の価値があります。こうした活動をして居る人達は人口の多い現在の東京人が多いのですが社長の輩出地を調べてみますと、北は山形・秋田出身が多く、南は香川・徳島と地方出身の方が多く北の特長は実直で勤勉、四国は堅実で商売上手と言われます。

いま、都会で活躍している社長達は地方出身が多いということでもあります。2つの研修で思った事は商売の近代化は不可欠ですが日本の情緒、故郷の味は時代が変わっても変えてはならないものがありました。